

## 18歳以上に達した小児IDDM児 の検鏡眼底所見

日比逸郎，田苗綾子，橋本伸子，  
浦上達彦，泉裕子（国立小児病院 内分泌代謝科）

### 〔目的〕

糖尿病性網膜症が検鏡的に小児期発症 IDDM 児において何歳ごろより，どのくらいの頻度で発見されるかを知りたかった。

### 〔方法〕

国立小児病院において治療中の小児期発症 IDDM 児のうち，すでに 18 歳以上に達した 22 名につき通常の検鏡眼底所見をしらべた。

### 〔結果〕（表—1）

糖尿病発症年齢  $8.6 \pm 3.3$  歳，罹病期間  $13.8 \pm 4.5$  年，現在年齢  $22.5 \pm 3.4$  歳，最近の HbA<sub>1c</sub> 値  $11.7 \pm 1.9\%$  の 22 症例中，単純性網膜症をもつもの 4 名 (18.2%)，増殖性網膜症をもつものなく，症例 3 は一時期増殖性で，現在は単純性網膜症をもっていた。症例 10 は一時期単純性網膜症をもっていたが，現在は消失していた。現在まで全く網膜症をもたないままているものは 17 名 (77.3%) であった。これは全国調査の成績<sup>1)</sup>と比べて明らかに良好な成績であった。なお網膜症保有例の網膜症発見年齢は 15 歳 5 ヶ月～21 歳 4 ヶ月であった。以上は全国調査の成績と比べ明らかに良好な成績であった。

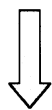
### 〔文献〕

- 1) 日比逸郎，ほか：ホルモンと臨床，30：981，1982

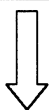
表-1 18才以上の IDDM 患者における顕鏡網膜所見

症 例	性	年 令 (年・月)	発症 年令	罹病期間 (年・月)	最近のHbA <sub>1c</sub> (%)	Retinopathy(発見年齢)
1 Y.Y.	♀	23.7	10.4	13.3	12.0	(一)
2 S.Y.	♂	22.6	5.10	17.6	12.3	(一)
3 S.M.	♂	26.8	7.0	19.8	15.1	B I - A III (16歳10ヵ月)
4 M.F.	♀	19.6	9.0	10.6	12.6	(一)
5 M.N.	♀	27.10	12.8	15.2	10.0	(一)
6 K.T.	♂	29.0	8.0	21.0	10.1	(一)
7 H.S.	♀	20.2	8.4	11.1	9.9	(一)
8 T.S.	♀	20.8	13.5	7.3	12.1	(一)
9 S.S.	♀	24.0	3.0	21.0	9.0	(一)
10 Y.S.	♀	19.10	5.10	14.0	13.1	(一) *
11 T.S.	♀	20.0	13.1	6.11	13.5	A I (16歳2ヵ月)
12 S.S.	♀	22.4	11.1	11.2	13.9	A I (21歳4ヵ月)
13 J.K.	♀	18.1	4.11	13.2	10.6	(一)
14 H.K.	♀	26.10	11.1	15.9	7.5	(一)
15 W.O.	♂	25.3	11.4	13.1	12.5	(一)
16 K.O.	♀	24.7	12.2	12.5	11.1	(一)
17 Y.I.	♂	18.6	10.10	7.1	13.0	(一)
18 M.I.	♂	18.5	7.0	11.5	12.9	(一)
19 T.S.	♂	20.0	7.0	14.0	9.5	(一)
20 A.I.	♀	18.5	10.3	9.2	10.9	(一)
21 N.A.	♀	26.0	7.11	18.1	14.7	A II (15歳5ヵ月)
22 Y.K.	♀	22.0	2.1	20.0	11.0	(一)

A = 単純性      B = 増殖性



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

糖尿病性網膜症が検鏡的に小児期発症 IDDM 児において何歳ごろより、どのくらいの頻度で発見されるかを知りたかった。